新板
繪入

世間娘容氣

一

遠13
653
1

遠門 653 巻 1

好文堂

明治三六年九月十一日購求

只誠藏

序

男女化して新婦となり。煙霞じゝく姑となる。姑妖くして嫗となり。持帚堂となり。子となつゝそして母。老ゆれば幼なるに似たり。父母なき家に孤ふあづうり。深閨の中に秘まゝにそだつ。女子乃ち生まれ。一生孫子のことあつうひとのふるれり。老法三つゝ。ぶれ年齢八十をとゝもろこしの世法ぶれでゝく。幼かより義ぎまを乃ち修よ育し。四人なる。もゝ爲て女子芝といふ。かゝるべしも文智人よ勝まとるといふよあり

など。夫婦を尊みて婚礼を重ん
世帯かぢふかを綾くまなくしたりの
さてば礼記の婚礼の事をの書。詩経の
乃徳を淑めく関雎乃篇をとぐむ今の一ど
きくよく初まるい好逑乃乃ぞう。そぐ逑よ
かへと書ること女は容色をあつめくとぐて
顕著して世界の慰物とあるとの

真磧

世間娘氣質一之巻

子息素質追加

同録

男を扉小女金子戯光娘

女房のうハ女合形ちくを女ハ花ハ袖
紐を始末ハ髪ハ肌ハ厳の墨未黄
縁への張を聲ハ立つうつうち毒
大神宗ハ獅子ハまつくのうく

世間かたぎの寛濶な踊娘

女は女婦ひい業耀よ解乃はひいきる繁切大臣
やぼで可ひ西瓜乃あでれ食色いやあよ簫乃笛
ふ稚婦ようる一度は客男のこ武遊女は懺悔物
百乃孫ようみ色てうる青好乃娘

世ふつまてく色の智る業武約。明日は賜り
真乃恋てる女は拍よかり。遊女者ろ武
かれ立付のこ年一字ってひ多男は分別新

男を扉ふ数金乃威光娘

淫古八津氣ふ色ちるを人は娘乃賢と伊ってこ。王年八の
娘間伽をおるるかってけのせい遊女ってるの女は乃ってさ
まとうって。乳ちぬ書賜女の絵をるるって。胸るふ帯ってて男
乃ってる神口ちるく。居獨踊っては乃中武男を伽ふもせと。
人は乃ってべくと天書ってけ。ふ乃は新ってむ男ってこ。
のやってをを揺ってふってつみは乃ってるを倒ってまぬ。ひってい拍を
もいってどこひは乃ふる音易をるる今時の女ってっまってふ男
と乃んふんせべ鼻の元乃間ってをみってけどこってかる。
生ってる筒新乃おってまってを。雀もをぬってるってく。立伽も
らぬでって乃拍藻。ってるんまるよってをるぶ下ってそっきぐは

あつもと中ぬ。右の五よ敷子の酒ある食機をかつかうきれ少力
ふ祝こ又をあり世ひうひとしとちわけがんれこぼの芽毛を刈て茶
袋の古さよ米糠をのく。へさごつく拾てある倩雲れまおうあ
つ。湯風呂よ長入てあつこみがこうよこげどきめあこまらぬ夏人
強るこうこまこやうそひさうろ〜つふ〜〜女れ伽羅の油をつる
といふ。遊女れか稼ある事めゝと尽ふ姫の子れ勝の結をふ
伽羅の油をある事ふて。毎物わうあよあ人の曲如一つ。飯
米れかの入めと寡用せるふ〜ふうつりと女房いをうれぬ浮世ぢ。
色乃白さ六十雑くとと七毫れそかんれる光ふを白粉を
ぬりう。間れ出ぬ雲をまとるりろふて臭と貧命と妄楽
唐の袋ろうりに行ふうりるをんづるかりきうれば南

世の姫れ風俗婦ふく。遊女れでく濁るよるれろふ母親の
鼻れこちらふて大かこるる美ふまるれ姫月侵しそめろ
衣裳をこ百こ人立ふ手社つまこ浮世男れんこ
立こ百ふを怪びあそこくあちのやうる姫持ここのふ世界こ
まいと鼻こ百ふて百ふるふあくこび。ナこをかこふ人
を年ふよまふけく。毋ぢつ人とふるく家ふ乃ふ指をのん
姫ふよ遊女れでこ百ふつり。濁ふある衣裳ふかざりが白ふ
ふと数くよ帰ふあふて。沼長ふる左ふ南ふこて垂ふ乃るひ魚
ここく世ふれ男ふ見これふ百ふくるこたこひふふ貞女ふ〜てこ
ふよかふく侍達とぬこ。人立ふ百をんづけこ百ふ気かふ酒
の事をこれふこれふこ親乃事をふ見ふこれこて。大臣の元こる南世の

美男よりは花とこそいふなれ。されどうつくしき人にて
うつくしく今時の女の風俗猫の目と同じ事なり。
かりそめにもいつ。さまを付くべき人の
ゆかりの人なりかく赤絵豆袋をぬぎそて殺よ入銀の煙草
揚枝よりて整形の様を異紙袋よりあり。紙ぢりめんの内衣
を間隔よりまこりわげ上られ高髪とかなりて前髪をとりのけ
右被ばくさみ第よ入させかぐ豆よりさうに白ぬれ子紙入汗
づりの異紙を拭きたをして供の下女よりて世青雲うれしく
極女は田の畦よりあるくごとく裾まくりあげどれが奥方と合
燒やうに打まづつまて風俗れ私まこ酒さまんよ美しきうちよれ雲
さいとんぱ坂八形縄まれ美貌の手をさきて極女は見して

世間

ゆうの者ど男小姓つうく京れ女ありど大膳ちう事ぷうしハ
中あれ遠来美女ぬうでハ柿結とのうたうりうりた。
七年の女世智がしまくもつく。麿このあくとあまそ神のとをを
いとうたてれ紅の柿結ばくうしたんくを女中れりんれとひ
やうまそたちうかうさ。ほうたるこ油の前髪して客表れよど
もあ男ぬ。油髪れかうぶ曲の髪よ。ほうれからぬ三まをて合
財の馬帽よまうらて。人れ女ぬ野中中ゆ八麻酒れ事解ろう
やうれまそわううをまれどちうたたれ武家方れ女中とんりひ私
れ無客ぬうを女をんけうぶうくなううを世とそもうハつよりう小娘
を人まうれ髪結湯言ふうう。どつとるれ当げ酒間よかうむと
びれ浮世ととあひとかのてとこあまくうんうう面好古代ハ縁付の

前達よりの新宅へ引かまとをかるゝと。国の神をまつりけるよ。今はの
娘おとゝ。くゝ仲人をたのみどがゝうの方へ。えらのをぎたりの
祝ひ。ゆゝ麻かるふのうらうく。恍惚鬼のごとくあらうなる。
新うぐらへ姫ぶ。ぶへ。ぶ。ぶ。ぶ

みぢん疵乳なるひやうと同じ法にてのくるのこと人のごと
きなれば根本元の根にてとぶきを敷くべし薬事おこなはやま
ず尿とりて也抗物根本元にて婦者つゝ法へつゞいて乳母も
ひそかにもるもこゞまとりあるべし新ひとつ男房もしもれ
つゝ蟹ぜんうれなるべしと青とあるを毒のちぐめと作り根本のかふと
つゝく嬉ごづひせどとして神やまと根本元の根というごんりとな
るべし百ひとんれうと言れとをぬむり此事今時つゝてあり
なるべく物ふのあるとちやあれ物よりもちうれいはいしくと
紀あがりて乳母もうるとあるをあり紀くあり乳あがりてなるう
まとと。ちうるひとをとうでくひどのようかさを乳房出ない
十七よりあり婦人大がり神とあるがり乳母う乳ふてきいくと

きうるをけうとをれ。智度あんまり奥あくうだうやうへ
きやうをかうと言りとあるをパぬ根ひあ乳ねちいさいとき
より法根義あるり方ひあるれちんさかくひあうと法細かれ付のれ
癖がやまどして今にひ乳うのあり根ちうれ年お乳の人と猫よ
付られまくうれぱうをまうれ法せるひ南度よお員とうあうれてか
らさかく乳をとうていあるくぬよちやとをれうくる年三をつく今
あるうと乳れあるとものがあるそぶふをちいうをうひぱさぎんがうるふ
ごきうまとあるあるをあんまりこんぐうふ根作られて下ようまとる。
ひうと神つきようやくうぎひと石河巻ようきうでごうま
をぱコレいとんるやくあうきうをどきづうふあるを神ねこくと
せうをあうくうるくいるパ智パ大かくきうをど所をつどごうや

女房ゑぐでいなりて。乳のこぶを書きまつ。そうかねぢぐこん
ちゑ者なるとや。こ業があるとをとり。脇をめつこ部つきぞこをいふ
せうちをうれまをかろ。ゆびはをゑ。ふゑまとゑ。ふゑげうこさ
つまをと。こすふをとなるりなをうれまをうかをこをろ　あをまいと
いふをそぶ。ゑりを見ゑうまりゑ。内絵ををあるゑ。すをあれち者
こいをよむゑををとをろ。うをと同じをうれむをうくちゑいをとををの
ををゑををを

菓子入の切食ふくれ者ゆませられて板つりぶん爾後のふ合茶
瓶より樹尾れ切〳〵茶を入よ湯をつれとうあるより水をなぜ。
鬢ハこうれより帳より帳ハ唐ハ和より。地文の裏付ととり替せ帯そ
前掛ハ帯ハ花紋の白さふさの西方ハんとうろう様所
かうハんものそくそのるれハつきくれつ〳〵りと先ハもつきれぬろ
ぬかくぬ〳〵ぬんせよ茶ハ産れ蛾が方〳〵者の記附ハ書れ〳〵ひ
ひつりせよと墨而鉢ハ家久〳〵き女ハよりひ付ハるもとうぬ
数帳ハ入ハ入ハつの前れ茶の絵書ハて移入ハ茶ハ書ハ園
乃風ハつるり。茶家の裏ハ茶れんるるハかくやりるハるり
数〳〵く世るれ女のうハりぜ事ハもよかぜうどるるるる
よ三郎つくるの桜ぬうせ世ぬるの家依物のおぶい

とんまぶ茶の毛ハ夢入〳〵ぶ寺ぬんどるかつり十極番弄かぶ珍
三味線絵ハるさ花むとびとで女れぶぐまむ祖の事ハんるて仕
つ〳〵ハるハ茶ハ茶ハ相撲の福田七ハ節雷電ハ搗負毛ぶ
んどふハちりれまいと問ハ合ハるハ秋の腔ハるて〳〵幸ぬハのつれ
ら〳〵。女れるぬふんるるといまむ〳〵ハぬ法ハるるるる〳〵事ぜ
かし。世ハ一切の男女ハ茶ハ茶ハ。伝ハるハて〳〵ぬ間ハてるる
つく西成影ハんハ茶西ハ無西ハ寺ハくやど。奥れぬあるせん
さくるり毛ハるるハ茶ハ殷の紂ハ王れ后姻ハ入ハ剣ハるるて。炮格の法を
ぬ〳〵間とるるるぬ〳〵ぬ間ハ廣似ハのびて焼ハ火ハるぬて
ん世〳〵れ〳〵も出ハ女房ハまるぬて間れれんぬ西ハぬ〳〵ぬ〳〵ハの
四月ハ七西九の代三百六十六女彩ハ判ハて八百度ハ法ハ

かへ(ま)へ。ところてんの代銭拾八貫三百廿六文。大男が門へ立ひ
ゐて。ぞくぞくと。ぶるぶるとふるへ。ぶるぶるとふるへ
やうに。むりゝゝに女れたがこのむ事。極女れぬい性質をもちしる
ものゝふ。今たがこのまゝ女と。結をもろ出家の稀なり。爰の所人
ものゝ。能筆とゆびさして。そもゝ勢よ古義れ育法仁代。永徳
ものゝ。名和乃乃をつゝへて。書よ茶の湯花。琴学和歌女れ
事業をもろと。亭主ハ方ものゝ大名まゝて。養所をんど関係いや
どもろ法方れ頭ゝ。ゆすもろびものさ美人。者乃ハを家の流
ふんふく。もろも書曲乃業ぬふゝく簫の名人。六月よ者の潤よ
をふもて。和をもふゝ。寿命の潤よをいくゝ。ま乃鼻毛をの
ぞき世義といひ気ろといひ方を花車でゝ。ゆ。夏の夜ハ

野深の月をて。高綱れ清よの中ハ。ゆ人ハ家れ多石よ。乃乃
性をもろ。ひ。ゆ治勢ぬ。ま乃量をもろ。ゆ世男気をもろ。ひ。ゆ。ハ
八人治れ。ま性ゆ。ゆもて。ゆ家切もろ。ゆ。ゆ。ゆ

まづき事なるふ。女は男まで我女はあとをうひぢんの国界より女
と出れて癒こう男ひとりまちの国界のあそびをせぬ事をと
見ては事にてあるれば かるひ切く亭主より行伯一年間の暇を
切く二つ折より暇をして若元めをとりてけよりをふるの風
俗を祝らで好より裏をとり〜八百掛の財産金ばらは中振指お
ばの事をとりて夫のと公をきて言をとりまざら無ら結方の結ひ
出しをとる辞のかつく女めづりかる俳のんで毒をうかとんでい
の。無邪南で親つくをんをくれのとうあづくの祝ひいつれ夫
は感をくしを今時は素女房れいまるをよまれるへ舎しを今をる
関姓素が慨ゴ西へをうひとりをふを言れと男へ元来女房をあそ
同はるひまるをへ国後ゴ男の風をまるるをとを初好をよ

ろうひ。女房つれを落涙(なみだ)ゴ行義屋ゴ庭表へとうて我家み
ゴの示ゴ言やをとうを涙を祝ん女よをそうく座ふをるの初ぬをん
言ふかうを言葉をへにをうるく言葉流ふをあをまへゴ言をろうくと
国義みをかどうは女房をんでおてゴひをるをあをびを天と
乃嬉事を見ふおのゴ日妻つをて紙屋町のを茶
屋ををくを言報ゴをふをゴれ大ざらゴ亭を国義乃義
負惜言て女房を蕭をうて安をべ〜をんゴ〜を白の粋を
ふつをのひろくは言曲へをうふ石へは蕭ををいる事を
らく紙屋河をゴまをくみまへゴ中〜夫婦をを紙屋義は西へ宿
ゴをのをゴてをうつをるの事縁ををつく縁をるあくをの
蕭をを事をへ河言をむ事をあををてををうい仕合をあるゴ

主海軍人額を極れば大臣てうしんのつくさあみごの前進れの
に寄物をかのくはされすと云家れ新して席相をうれかろ
鼻高ふてとおろれ門仮へ元来蕭の名人附へ新ちると妹
門蒼素と張人吉をふとと云漢楚の戦ひの決九里山をて
張良ど暗ろる一色。よをつろてふをろれへ満座爰よ今まで
云ふ一にさろざろ血気の男九像よ法学よるつく新又ろ才かろ
脳を出てまあけられと金をもひ事につろひてをと行異加
をおひ事とひひ付し飲喰ごよ論ろへふまて来ることて
寄物ふる。庭出の奥よおごれろ治郎へ実の新れから為相
出くろふとろし美ろる吉の事と言出て三徒線抱ろど
ら間ごめへ新方かろれ白人へおぶ人をふて三年目おごて間お

ゆろ附れ事言出せへ法ろろよ脳年ろ沈てよその女九へ
ろふ言しひゆくふこらのへ尾の多い蔦織懐く麗ゆあごめ嘆
ゆ西云ふをろるれもへをんごと見てもひんなごろ　ごくと
て性夫も貴とてかりよおひとあれて寄ごに寄れのをさをを
高くくものろ肩牙ごばろくかるくを濃日の附をかろて間
と言ごせへ自義の白人へ和模を風ど裸よるくをろそを対食
乃飯糊と異服代よりきそ濃このろるみ色でるをれへ世為りへ
ゆの事かとんご字れをあもかあろどゆれよをろあて
れ思ひ時。岩鞠相へ習のゆろ言事をあをへ人へ事を多歳ろ首縊
仕蘇とをんをくやあくをわらをるへ海世ちやたへを相の役
とそひろ酒のあのをさをらま。時をありぬ大臣の場ろと優ふれ

よりハ純の者よたつけものとつるを出よ人の事ふを知ひとつり。
世ハ是れ[illegible]と事まで人中でかるく世の為ものかるくさ和
ハるゝ。かくお気よ入てもあ度紙めゝ法まりれ[illegible]で一ゑ閑ふう
ひさんれゝ二角さやひ度の黄昏ふ世界の判の隆盛ハ[illegible]ひとゝ揺れまゝ
とゞめて喜ゝを就どれ。欲のやうひあるゞ。まゝ他とるゝ心意う
して浜里気ゝまつゝ。ゝつゞ寿ゝ云つゝぬ高貴もゞゝと。簡八一喜を
きつゝくん私ゝてゝ。ゝをとゝぬ減をあゞせハ奥ゞれゝあゝハつゝも
おゝゝろひ度まゝつゝハいな事ゝ異界ゝ清ハゝるゞきれゝん化が
きるゝとせつゝ金ゝ出ゝて鍛ゝよゝうゝ白人と浮世のゝゝぬ世界世
出ゝゝゝぶんゝゝ二来ひゝろ合力出て独ゝぬゝゝて茶やゝゝゝゝゝぬ
百八鈍ゝよゝ為ゝゝ妻好れ娘

閑ゝゝ雛鳩者ゝれ他を助くゝとのゝ。磨ゝ乃宣帝ゝ[illegible]者ゝと
ひゝゝ醜ゝ世ゝ居ゝ宮ゝゝもぴ智ゝ借ゝく改乃ゝとゝゝゝひ
ゝ西ゝよ。森の国大ゝよ治れゝ。ゝ今対ハ都鄙ゝ七知ゝ事
ゝゝゝゝまゝく女ゝゝの事ゝゝそゝ女の鼻れゝた智ゝ西ゝ
ゝゝゝ新ゝゝ素女れゝゝ事ゝとゝゝゝゝ肥摩のゝれゝゝゝ
ハ人ゝゝわゝまゝゝり。世ゝ女ゝゝゝゝゝ部ゝゝ。女ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ西ゝゝ。ゝの主ゝ新西乃ゝゝゝと磨ゝ猿摩ゝ鼻沢
ゝゝ久ゝゝ町人代ゝ中富ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝ。
ゝゝゝ戸人の猿の中ゝ知ゝゝゝゝゝ二人ゝ種ゝゝゝ。借猿
せぬゝゝ猫ゝ世ゝ世ゝゝゝ猿ゝゝ猿ゝゝゝゝ。ゝゝゝ
乃ゝ鷹ゝのゝ人ゝゝゝゝれゝ。教書乃法文庫ゝゝゝゝ。ゝ人乃

世娘
一之巻

中のそひとりは女なれば今町人のせがれ[illegible]
むりはまづ[illegible]
乃中神いろを同じかさなりて[illegible]
うるわしく[illegible]
肉山の[illegible]
ひさ敷の[illegible]
[illegible]
[illegible]

面の白ら麁らぬ所ける分代多那せるゝ今ぎるゞと。女房が乳
をとまれとまれとまれ

の稽古をあつめてちんでうつくしひつきて殘りすくるこの事にて
紙をもつて書そへ殘りし。をかりの合燒てをへをる（後略）
を祭をしてあてがひ。稽古をすれのけ有りしを拙をいてうはく
れをふいりけまひ。ごうをひ堪のをてるうひ。ゆのじとへ。ぱ。ゆ。へ。恵
姫乃高の師直をこのまれ。数書ををくをうをてうれ。こいる。
今年のあげへて元とひこううをづをを。もより新ひ所話の国安をを
をうひて。女業若とうををとり。まふををるをねをうれいひんをを
ぐうりゆ。く。八年ゆ姫の勝をゆ。ほををうゆ。れ虎流分別。女
をうみたゆ。ををを仇ゆをり。を。も根ゆ世をををぬ女の業をれで。
紙ををる四業をを。をそひ牙ををゆむ人ををて今八年れ金をを
をれをおりゆ。町の年寄先月ををうを先をりうれ仮員ををとあを

せ人をゆ。智恵才覚ある人をくをて新祝の人をとをされば。
ゆが町ゆくを人をれへ後やををむりを今かれをを家の移をれ
入を移代をを張ゆ枝つをを。家移借ををれ月せへ来をいゆと
ひをを移をかを。文貢ゆををうをてをるゆかをどへ伝ゆををと。明日
新れ食をりゆとをゆ。まゆゆ枝の包紙ををびつを。をを白かく元をゆ
をて燒ゆれ大ををるをををりつく。仮を分からへ新つををり。武
州町内接拾屋へ壹貫ゆ百ゆの紙ゆ拾ゆつを。をる表面へか
称ひゆをのそげをりつく。仮を考ゆまを也。をを所れゆ町
れ枝をれをれへまゆむゆり。をくをれを面を使て四隅でをる
ゆをゆをゆを元へたゆ手岩れの伝を書ををるへ紙ゆ分別を
も宮ゆをいゆく仕事ゆを組中ゆかひり世へ後ゆををりゆ

おもうのく嘆かさをよかるこづ。みせてをよかるこづ家の宿をの一世
一代の分別の人形。をのくさりくかつきくる家と。祝とうを世桑滅は
ほうのく。仕かくと用人ゑびは宿よ失念せくるあれ。やく
山状世屋先よわうくて逃るタとうて来れと事みさふは祝方へやう
くれ仕ゑ侍ばりつく接や（由さ）問後よまを在ハ世屋ひくさんる
ホ町元ハまびくさのよかくふとあるう。祝来ゑまをはといふくるはまて
みびくひや。分別ひア銭とうてあり世屋ら泊わくまく公事を事
付て色あり（ゑうとまくせと仕ゑ人（ゑま）へ。ゑ元答あ（ゑ海）うか
事業ゑまを在ハをまく用事ひくゑて宵ア はをひくさえ。
をびんまとれぬやうに望ゑ逃よみくやとろ人（人扱をとう。方先
ハゑハ時うくまるひ藤て雪清（ゑ来）くゑハよハ思案ハ山ませね。

いつまを嘆ハうと作るくか。備立のひものゑハ仕程でまひてから
ひゑハんで。先を俺銭の免報を。ゑて。ゑを俺をとるわ後よハうこ
ゑまくゑハいづまを色ハ安ゑ考れの山をと作先。ひ物やをよびゑを
ゑ俺をうぬをハ元ひ銭ハ百ゑ十ゑまを別ゑまの利益をゑ言。
句ゑ一度つくおとう。七ゑ沙業ゑまくゑとゑ。南ゑを銭もあの
方うくゑてめて来うれ判をあくをとうて算。ゑ立ゑあうくを
ゑくうを出うくハ学ゑまゑぬ。とかく元銭百ゑ十ゑあれ。ハを三分
ゑて学ゑゑでおるびゑうれて下うまを毎てこのめハ町元利
をそうゑ問後のゑけハをを角を。先を銭のかりその吉要ゑ百ゑる
をハ学ゑゑでをゑくて下ゑれと髭ひそくして。町中のロかゑ人
ゑをゑうれぬ。ゑうくおを考れゑハうゑかるくゑまをそをゑハ。年

考へ仕事屋ゞ五軒ほどをいくとこわ後ちでて面白くしたみく
ゐ方仕事ゞ世間えうこゝろよつうとあわれぶみろ拾てゐけ
とさうゝくとまてひん孫ち男人をとりてこ奴ふ
て今かゝゐ考へ合ハ金而でハ法華男まあそぐぶ出来ぶ法ハ
やうに問うでおこれてハゐよでこうまをとハ金ト三
さゝくをかゝふ亀が若一所のたゞ白ときろあが女房ぶちを
をかつくゐうとあのうだハというどとくふいてこいと赤面して
ふゞくゝう考うろれハ仮人ゐ見ようわゝてゐくさとふくし
こゐゝしてこまてと続や〳〵ゐうびゝてとれ辻まで出き庫ゝ問
うこ〳〵考うまゝこれハぶ問笑屋方〳〵ハ男ゐあつくこさう
まゝこゞ赤ゝ色ゐあ問うゐこれまハとハ家亀花ゞゝこれ

まゝてぶ仕をとうつくゐうまゝこをとこゝ考ハ考あうゐを
うゐて男たゞ考屋〳〵ゐ付ゞどんゐ男でも宿ゐあると目ぶゐひ
付をくゐこ男をうゐくゝいつくゐ〳〵ゐるをいつまをゐ後ハゐ目ぶ果
ゐてこふ女たゞ行男でいつゐ方〳〵考つこと問ゐこうれハ拙ゐ
ハ拙ゐ三まゐとぶをうけゝこを仕ゐうゐあゐてかゝをこれハ町元
わとふ詠り考でハ行ゐれゐ後ゐ婚あうと問ゐ考屋ゐハ年考ハ
女まつをでゐゝ考ゐをとゐ宿をゐの乳ちこゐゐふたゐよい
ゝこゝハかゝゐを考ゐハ考ゐれゐう先ゐ問笑屋ゐを
先〳〵び仕後合で仕ゐ考ゐハ法問測〳〵を女屋ゐあハをハゝこを考
考ゐあうまゐとと扉をつゐくゝいうゝきると笑ひ後をゐをこを

世間娘気質　一之巻　終